

しんあい

季刊

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10

TEL 042-366-0080

多摩同胞会のホームページを開設
しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>
をご覧ください

2004年(平成16年) 11月5日発行 第55号 ◆編集と発行 しんあい編集部



あさひ苑で最高齢者のOさんは102歳。
◀ お生まれになった明治35年は日英同盟が締結された年。飛行家のリンドバーク、推理作家の横溝正史もこの年に生まれました。

(あさひ苑敬老 祝賀会)

天気の良い日は
園庭で「いただきまーす」▶
ピクニック気分の楽しい
給食です。

(しらとり)



介護に関するご相談は無料ダイヤルで!

- 泉苑在宅介護支援センター
☎ 0120-6540-24
老後支援 24時間
- あさひ苑在宅介護支援センター
☎ 0120-2942-24
福祉にっこり 24時間

- 介護保険を考える
PART 20
- 緑苑移転10年を迎えて
- 施設日より
小さい秋見つけた

対談 介護保険を考えるPART20 「2005年度介護保険制度見直しの問題点」

介護保険制度は5年ごとに見直しをする（こと）になっています。2005年はその見直しの年です。今年の7月に国（厚生労働省）の案が示されていますが、それはどういうものなのか、どんな問題があるのでしょうか。

対談者紹介（敬省略）



小笠原 祐次
中部学院大学教授
多摩同例会 理事



金 善英
多摩同例会
スーパードクター
（社会学博士）

受け皿の基盤をもっていない自治体は給付制限の恐れがあり、サービスは縮小すると思います。

今回の介護予防の内容を見ると、日常生活の支援が医療的ケアに傾いていく危険があると思います。

国はリスクの安定と財政の安定がねらいだと思えます。医療と介護、福祉を連携させ社会保障制度を強化させていくでしょう。私の考える問題点を3つ挙げます。

1. 65歳以上の高齢者のリスクが「予防給付」によって安定できるのが疑問。高齢者に予防を中心としたサービスが提供されると、その後極端に状態が悪くなる可能性がある。
2. 被保険者層を広げるのが狙いで財政は安定するが障害に保険をかけることには疑問がある。
3. 高齢者の年金で介護と医療費を負担させる循環は給付制限を強めることとなる。

老後の生活は医療と介護サービスを買うだけで終わってしまうのでしょうか。
（引用表・解説）

そして社会基盤をつくるためには何十年もかかるのに単年度で構築しようと制度は動いていますし、2015年の高齢化率に焦点をあてて進めることにも問題があります。せめて介護保険が私保険なら契約の条件と

5年の経過と「見直し」の内容

平成12年に介護保険制度が始まり一挙にサービス利用者が2倍に増加し、これまでにくらべて介護（福祉）が国民の中に広く行き渡って来たといってもよいでしょう。一方では、実際には利用限度額の約5割しか利用されていないにもかかわらず、財政が不安定になったという弱い財政基盤も見えてきています。

また、在宅サービスを重視し、「施設よりも在宅」を強調しましたが特養や老健の待機者が増えて実態です。今回の見直しでこれらの積み残しの問題が解決されるのでしょうか。

社会保障審議会介護保険部会が出した介護保険制度の見直しは大きく3つに集約されると思います。

1. 給付の効率のために、要支援と要介護1の人に「予防給付」を行い自立を期待する。

してサービス利用量の選択、負担の自己責任は当然ですが、社会保険の性格をもちな

2. 施設利用の希望を少なくするため、施設と在宅の費用負担の均衡をはかる。（施設利用者から部屋代などを負担させる。）
3. 地域密着型として小規模多機能施設により、住み慣れた地域で生活する。

制度全体のしくみの問題

介護保険の目的は高齢者医療費の抑制、サービスの普遍化でした。しかし社会的入院は減らず医療費は抑制することができませんでした。さらにもとから給付は拡大する体質を持っているので、サービスの普遍化で増大しました。

介護保険はもともと65歳以上という高齢者に限定したのに、今回の見直しが「予防」というキーワードで仕掛けるのがいざばんの問題だと私は思います。

また、地域密着、地域包括支援という提案はあるのですが、そのシステムづくりが目に見えるようになっていないことも問題です。

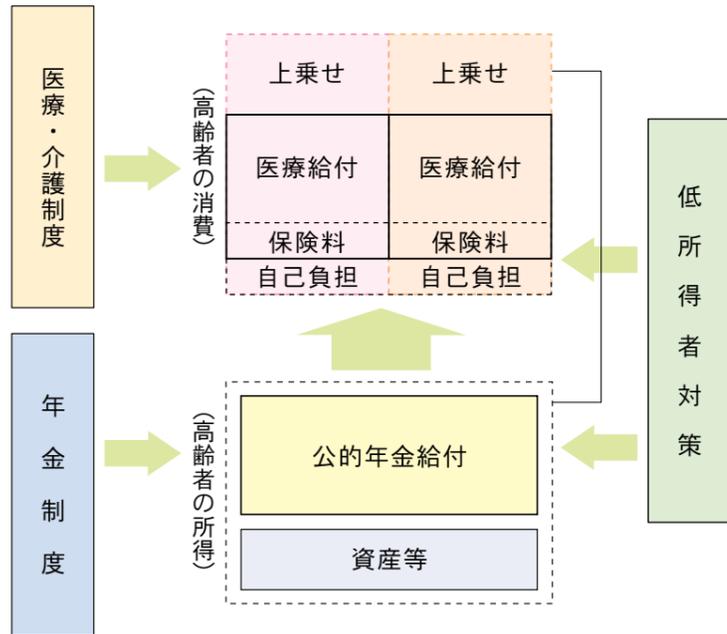
から私保険の理念を持ち出すおかしな制度になっていると思います。

参考 引用表・解説

出典：http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/06/s0616-4c.html
厚生労働省社会保障審議会意見書資料（2003年6月16日）
資料3 今後の社会保障改革の方向性に関する意見のポイント

「今後の社会保障改革の方向」から見た高齢者の消費循環（引用表の解説）

- ◆高齢者の所得
①公的年金給付、②資産等
- ◆高齢者の消費
医療・介護給付の購入
①保険料（サービス利用権の獲得のために必要）
②自己負担（利用額の1割分と制度枠を超えたサービス利用時に発生する負担分）
③上乗せ（個別なニーズによるサービス利用時に発生する負担）
- ◆問題点



- ①医療・介護給付内容が「身体機能」を向上させる方向から、要支援・要介護1の人は訪問介護サービスが使えなくなるなど、要介護者に必要な生活支援は保険枠から外れる可能性が高い。生活支援サービスなどは、「自己負担、上乗せ」領域で購入する方向性を提示している。このように、「たくさん利用する人がたくさん負担する（応益負担）」制度になってしまうと、社会保険（強制保険）ではなくなる。
- ②年金の使い道を「医療・介護」に限定させ。「医療・介護」費用を年金から賄えようとしている。最低生活維持であれ、従前生活維持であれ、「年金」の役割は、人の生活そのものの保障ではなく、「医療・介護」の保障のために存在することになる。

介護予防とは

まず「予防給付」の問題からはじめてみましょう。

予防給付は要介護になることを問題としています。65歳以上では加齢に伴い身体能力が低下するのが自然ですが、予防給付でそれを食い止めようとしているのです。特に要支援、要介護1といった軽度の要介護の人は身体能力も生活能力も「自立」になって当然という方向を前提にしていますが、そういう高齢者像の見方は正しいのでしょうか。どこが自立、いつまで自立していいいいのか。ここを明確にしないで予防給付といっているんですよね。

それができないと利用を制限されてしまいます。実態を見て施策されているとは思えません。運動機能強化という医学的な発想が果たして65歳以上の高齢者にあてはまるのでしょうか。運動機能強化は若年層から始めることに効果があります。「おたつしや21」のような筋力トレーニングが多くの高齢者に効果があるのかも疑問ですね。健康管理が介護予防になるという発想が給付額の減少につながるのでしょうか。

要介護3以上はある程度介護サービスのパターンは明らかになっています。莫大に給付が使われているといわれる要介

費用負担の問題は

在宅と施設が費用の負担面で平等ではないから、ホーム入所者がホテルコストを払うべきという問題はどう考えますか。

施設サービスを選んだ理由は金銭的な面のみではないと思います。家族形態の問題や在宅福祉の不十分さ等があるのに分析されず、論理のすりかえがあります。理由は様々ですが、措置の時代では低所得者、また家庭環境、在宅の不安などにより入所となりました。

在宅以外を望むのはその点だったはずですが単に利用料が安いからではないと思います。富裕層でも将来的な不安で施設を望む方はいらっしゃるが。

北欧などではホームヘルプを充実させています。それだけで在宅生活はかなり可能となるんですね。施設希望が増えるのは在宅の不十分さが大きいのですから日本のホームヘルプも考え直してみる必要があります。

しかし今度の提言ではこればぜんぜん入っていません。

サービスの役割が議論されていないですね。

人間の尊厳、利用者本位とはいいながらすべてお金の問題にすりかわっているんです。

護1や2の給付を地域に責任転嫁しようとしているのがわかります。

経済力がある人はよいのですが、ない人への施策がありません。

予防事業は保健事業として保健センターでの事業を基盤にするようです。

運動機能を強化するケアプランを作れる力量を持つケアマネジャーは限られると思います。

閉じこもりは意欲、人間関係の問題があげられますが、予防活動に参加させるというだけでそれらは解決できませんよね。

財政安定のキーワードが介護予防です。

要支援の人が今のような生活ができていないのは介護サービスがあつたからです。

現在議論されている通りに実施してしまうと、給付はしばらくの間は減りますが、悪化すると介護度はすぐ上がり給付も増えます。

トータルで見るとかえって財政は悪化するのではないのでしょうか。見通しが甘いような気がします。

地域密着とは

次に地域密着型はどんな意味があるのでしょうか。

地域密着は小規模と多機能がキーワードです。在宅で生活したいと思っている人は



白熱した議論は2時間に及びました。誌面の都合上すべてお聞かせできないのが、残念です。

ホテルコスト負担、食事代の全額、高熱水費までも負担しろというんですから。

個室とユニットケアは利用者減と職員減につながると思います。

今の特養利用者は5割以上が措置からの人。自宅介護が困難な方が入所していました。それで今も特養の狭い、多床の中で生活している。このような環境を変えずに、負担だけを多くするのは納得がいきませんし。これまでの施設は公費で建設されたのです。

利用者層を変えなさいということですよ。とても差別的な施策だと思えます。

介護保険制度導入時にはこれでステイグマ（福祉を受けることでの恥の意識）がなくなると言っていたのに、またそういうことになるといいますね。

多いはずですよ。

小規模多機能は機能するのでしょうか。これ以上大施設が作れないから小さいもので考えたのだと思います。

多機能の実際の運営には高いコーディネイト能力が必要です。そういう人材を含めて地方によってサービスの格差が広がる可能性が高いし、財政の厳しい市町村では基盤整備ができないと思います。

補助金制度から交付金制度への転換により財源のあいまいさが見えます。

小規模は大規模よりもコスト高で、さらに職員の力が要求されます。また、営利企業の参入も考えられます。

対人サービスが利益追求となると質の追求ができません。このサービスは利益を追求する領域ではないと思うのですが。

介護報酬の単価の問題も出てくるでしょう。利益優先だと一番高いサービスに流れる可能性ががあります。事業者の選定をしつかりしないと危ない。

すべてがお金になるか、ならないか、とってしまいますね。



人材育成は

最後に気になることとして、介護職の人材育成・専門性が大切だといながら経営上の問題から非常勤、パート、登録ヘルパー化が進み、また一方で職員の責任もいろいろ問われています。

さらに2010年くらいには労働者500万人が不足するため、介護・看護職の外国人労働者の受け入れをする提案もあります。これらの問題が「見直し」にはありません。

財政のみしか考えていない証拠ですね。社会福祉関係の仕事は、比較的社会的地位や待遇が低いのですが、これが議論されていないのも疑問です。

低コストのために外国人労働者を雇用するより国内労働環境を改善して介護サービスの質的向上をはかるべきではないでしょうか。

「見直し」の中でもサービスの質のことが言われていますが、サービス評価や情報開示ばかりでなく、対人サービスの専門性、ケアの特質を含めて職員の専門性やそれにふさわしい身分、待遇についても考えるべきだと思います。

(終わり)

座談会

緑苑移転10年を迎えて



平成7年 鈴木都知事をお迎えして。



地域交流スペースで、10年の思い出語り合いをしました。

緑苑は府中市緑町に居を構えてもう10年が経ちました。今回は武蔵台から緑町への引越しを経験された利用者の方々に集まっていたきました。



10年の思い出

- 座談会メンバー（敬称略）**
- 関 道子 現泉苑施設長（移転当時 緑苑副施設長）
 - 中本和浩 緑苑訓練指導員
 - 鈴木政良 緑苑食事係
 - 橋本裕子 緑苑特養係リーダー
 - 信愛寮ご利用者



東京都高齢者スポーツ大会に参加

施設長緑苑が10年経ったという事で本当におめでたい事と思いますし、皆様がこうして今お元気ですらうことが何よりだなとしみじみ思いますよ。平成6年4月に住み慣れた武蔵台からこの緑町のあたらしい施設に3日間かけて引越しをしていただきました。その頃のことを覚えていらつしやいますか？

延命 4月25日でしたね。楽しかったですねえ。施設長楽しかった？あの時は大変でした。

延命 大変だったのだけれど、緑苑に来られることがうれしかったですね。

伊藤 私は26日に引越ししました。自分が10年歳をとったのも忘れてしまいました。昔のことはよく思い出して話をしています。関

井上 私の思い出は初めての納涼祭でございます。こちらに引越してきて周りの方と馴染めるのかなと思いましたが、あの時は嬉しかったですね。これで周りの方とも仲良くなれると思えました。雨の中でしたが大勢ご近所の方がいらしてくださったんです。ですから緑苑も地域の方に支えられているなということを実感しました。

延命 ここへ越した頃、皆さんが民謡の踊りなどをしましたでしょう。あれがうんと思ひ出になつていますね。現在は気楽に太つて暮らしています（笑）

関施設長 幸せなのですよ、元気で健康がなによりですものね。

長津 私は武蔵台にいたころは体も丈夫な方でしたから、旅行もたくさん出かけましたので楽しかった記憶しかありませんね。こちらへ来てから膝を悪くして、思うように出かけられなくなってしまつて旅行も遠慮しています。

関 「ここでの生活で一番の心配事はなにか」と聞かれて「人間関係だ」と答えたやり取りを覚えています。しかし皆さんいい人ばかりです。

嶋野

施設長には色々お世話になりました。長い間苦労かけて、慣れた頃には泉苑に行つてしまつたけれど…（笑）100歳まではあと3年ですからがんばるつもりです。

中本

10年間といいますが長いですね。この3、4年で手術をしましてから武蔵台へ伺つていませんけれども、右に左に思い出がたくさんございます。このころは忘れるほうが多くて困りますけれどもね。（笑）

鈴木

僕は平成6年の3月に多摩同朋会に就職しました。それから4月25日の引越しまでの1ヶ月の間にご利用者の荷物整理やお食事のお手伝いをさせて頂きました。その中で大変だったことは「引越す際の荷物量なるべく減らしてください。」というお願いをしながら引越しの荷物整理をさせて頂いた事です。それを懐かしく思います。

坪田

私は年中怒られるようなことばかりして。本当に迷惑をかけたね。どうしても短気を起こしてしまうことがあるのだけれどその辺は一つ勘弁して頂いて。これからは一生懸命努力をして、85歳までは生きたいなと思います。

鈴木

緑苑は建設にあたり地域の方々に8回も説明会を行いました。建物で陽がささなくなるのでは？火事になる危険性は？など様々な心配について話し合いました。地域の方々にも少しづつご理解頂いて、協力して頂けるようになりました。そして初めての納涼祭。今では700人、800人と来ていただけの行事になりました。緑苑が地域から歓迎され、そして見守られていると感じます。三本木公園の清掃等にも行かれて、地域の方も皆様の力を頼りになっています。

中城前理事長との思い出

関施設長 中城理事長はこの緑苑に来ることをとても楽しみにされていました。ここへ来て皆さんとお話しすることが喜びだったようです。理事長は皆さんを元氣付けていましたけれど、理事長ご自身も皆さんからパワーをもらつてもっと頑張ろうとしていらしたと思います。本来であれば、今年100歳です。仕事には大変厳しい人でしたけれども、本当に人情の厚い方だったと思います。

井上

私は先生に一度叱られたことがありました。防災訓練の時にヘルメットから前髪がちらちらと見えていたのです。そうしたら、「こんなに見えているけれど、きちんと入れなさいよ。焼けると大変なことになるから。」とご注意頂きました。小さな所まで行き届いて見ておられると思つてびっくり致しました。強烈な印象でした。

嶋野

色々ためになるお話をしていたので、いつも元気で話をいれるようなお声でした。それが本当に頭に残っています。



延命 私は、袋田の滝に行った時に理事長の側を歩くのが近寄りたかったの、離れて歩いていたので、理事長から早く来なさいと言われ、すぐ後ろを歩いていたところを写真に撮られました。それを記念にとつてあります。

三浦 朝早く起きることが精一杯です。三浦さんは毎朝玄関先をお掃除してくださってますものね。職員一同感謝しております。ありがとうございます。

関 旅行で千昌夫の歌を必ず歌われました。あれが楽しみでした。

井上 先生のお気持ちですね。中城スピリッツをずっと皆さんで続けていけたらなと思います。

伊藤 理事長が亡くなる年の新年会で「私は後2年は死ねないんだよ」と話されたことが未だに心に残っています。

嶋野 とにかく人様に迷惑をかけないように。今までの10年間で良くして頂いていますので、今までどおりで満足です。

中本 10年前は給料を理事長から直接手渡しして頂きました。理事長が名前を呼んだ時に返事が小さいと、「もっと大きな声を出すように」と怒られたの覚えています。敬老の集いではカラオケをされたことが懐かしい思い出です。

高橋 私は「一生懸命頑張ります。」としか言いようがありません。これから思い出をこさえます。

関施設長 こちらにいらっしゃる皆さんは、まだまだ心身能力が高いから、色々人間関係もゴツゴツしたりもしますよね。でも、お互いにそうやって刺激を合ったり、自分のできることを自分の力でするということはとても大事

坪田 職員の法橋さんが退職してからお芝居のパートナーが見つからない。小林さんと1度組んだけれどそれ以来コンビが中々出来ないなあ。今里さんに「今年はまだ何もやらないのね。」なんて言われてさ。これからも相棒を誰か見つけてやってみようと思うんだ。

鈴木 ここがオープンした平成6年4月25日から、日に三度三度食事を出し続けています。これからもずっと食事を提供できるように、若手を育てていきたいと思えます。若い世代に期待してください。

鈴木 (まとめ：横地貴洋)

これからの抱負、目標

鈴木 (まとめ：横地貴洋)



●事業内容の変遷

- 平成6年・・・都道拡張工事による養護老人ホーム信愛寮（暫定90床）の移転のため府中市緑町に施設を新築し、小規模特養信愛緑苑を併設。養護50床と特養30床の一体運営（総称：緑苑）で事業開始。6月～自立ショート4床開始。（府中市委託事業）
- 平成7年・・・4月～鈴木都知事来寮・9月～喫茶室開始
- 平成10年・・・農林水産振興財団補助金で苑庭整備（パーゴラ設置、キイウィ・柿木植樹）
- 平成11年・・・緑町自治会との災害時応援協定締結。非常放送設備を各居室に増設。
- 平成12年・・・信愛緑苑が介護老人福祉施設として指定。緑苑居宅介護支援センター開設
- 平成14年・・・緑苑地域デイサービス事業開始（府中市委託事業）。
- 平成15年・・・緑苑在宅介護支援センター事業開始（府中市委託事業）。

●平均年齢の移り変わり

平成6年度	信愛寮・・・男性74.1歳	女性81.3歳	平均79.8歳
	信愛緑苑・・・男性77.9歳	女性81.3歳	平均80.1歳
平成15年度	信愛寮・・・男性78.6歳	女性83.8歳	平均82.7歳
	信愛緑苑・・・男性83.4歳	女性89.1歳	平均87.5歳



小さな秋見つけた！

夏はあつとつ間に終わり、二雨ごとに秋の深まりが感じられます。今回は各施設の秋の始まりを探してみました。

泉苑

頭の体操五・七・五!?

日中は、汗をかきかき訪問していますが、夕方になるとフツと涼しい風が吹き、「ああ、秋が近づいているんだなあ・・・。」と暑かった夏が遠い日のように思われます。

リハビリの 杖の先ゆく 蝸牛（かたつむり）
俳人のご利用者に添削していただこうと、看護師が詠んだ一句です。この句を見たご利用者は、目を輝かせながら、ご自分の句集の中の句を見せてくださいました。

「蝸牛」は、夏の季語だそうです。今度は秋の句を詠もうと「小さな秋」探しをしながら、訪問の自転車を走らせ、一句ひねっている私たちです。

通勤路 しおからトンボと 競争だ

私たちは、ご利用者の見せてくださる、輝いた姿を楽しみに訪問させていただいています。

私も一句。入浴介助の時に浮かんだ句です。

共に汗 風呂場の窓から 羊糞

皆様も一句、いかがでしょうか。

(訪問看護師・片岡 智子)

岩本町

岩本町の小さな秋

お月見の季節です。ということでご利用者の皆さんと来月のカレンダーを作っています。デイサービスのフロアーの壁には、その月ごとの季節感を出せるような大きい絵が貼ってあります。今作っているのは満月、ウサギ、お団子。それぞれの絵に色鉛筆で色を塗ったり、ちぎり絵で色紙を貼っていったりと完成に向けて皆さんで協力して作業を行っています。

そんな中、違うテーブルでぼつんと一人Yさん。カレンダー作りにお誘いするのですが、「私は目が見えないからいいです」と…他の活動にお誘いしても、ここぞこうしていたいとのこと。しばらくするとYさんの補聴器が部屋中に鳴り響いてきました。「大丈夫ですか!？」と補聴器を直しに行ったところ、「何も見えなくて昔も聞こえなくなっちゃったからひとり取り残されたみたいでビックリしちゃったよ」と少し慌てた様子。そのままYさんとお話していると「秋を感じる時ってさっきみたいな時だよ」と。「え?どんな時ですか?」とお聞きすると、「ひとりぼっちで寂しいような時だよ」と笑っておっしゃいました。

確かに秋になるとどこか少し寂しく感じるような気持ちがあるような気がしました。秋と言えば、食欲・芸術・運動・読書等...いろいろなありますが、哀愁、も秋の味わいの一つだなと、窓から入ってくる外の少し冷たい風を感じながら思う2人でした。

(介護員 片庭 祐輔)

かんだ連雀

実りの秋!!
かんだ米!?

前号でも紹介しましたように、かんだ連雀の建物の周りは老舗が多く、大きなビルに囲まれています。

そんな中、2階のデイサービスのベランダでは6月よりお米作りをしています。限られた条件の中、「かんだ米」はたくましく育っています。ご利用者のO様は「こんなところでできるわけがない、と思っていたらこんなに育っていてびっくりしたわ。お米の花つてはじめてみたわ。」と、驚かれた様子です。これからの成長をみんなで見守っていきたいと思います。

緑が少ないこの地域で、かんだ米は無事に収穫できるか?と皆様気にかけている様子です。これからの成長をみんなで見守っていきたいと思います。

*かんだ米は私たちの呼称でありまして、お米の名前ではありませんので予め承知おきください。

(相談員 阿久津 弘)



しらとり

せみ君バイバイ!
どんぐりさん、
こんにちは♪

夏が終わり外遊びが増えてくると、子ども達は大好きな蝉の声が聞えないことに気が付きます。そして、裏山への散歩で足元に秋の気配を感じました。まつぼっくりにまんまるの大きなくぬぎ、帽子のないどんぐり、みんな目を輝かせて「あったー! あったー!」と大興奮。トコトコ歩いては拾い、また歩いては拾い、ポケットやウエストポーチをパンパンにふくらませて大事に持って帰ります。グラウンドの隅に集まった落ち葉には足首までを埋もれさせて「すごーい! ふかふかだねー。」と大喜び。枯れ葉を踏むたびに「パリパリッ」「カサカサ」と鳴る音を小さな足で楽しんだり、雲ひとつない高い空を見上げて遠くの方を小さく飛んでいる飛行機に一生懸命手を振ったり。目だけでなく、体中で秋をいっぱい感じ楽しんでる毎日です。

(保育士 奥田 淳子)



あさひ苑

目には
さやかに
見えねども…

9月上旬のある日、デイサービスの歌の活動の時間に「秋」にちなんだ曲「里の秋」「旅愁」「紅葉」等々を皆さんと一緒に歌いながら「秋と言えは何でしょう?」とお話をしました。秋刀魚、栗、銀杏、松茸…食べ物ばかりですけど。

しかし暦の上では秋ですが、今年は例年になく暑い日が続いていました。この日も照りつける太陽を横目に、涼しい部屋の中で秋の歌を歌っていました。「暑くて秋が来たとは思えませぬね。」と言うと、あるご利用者が「秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」とおっしゃいました。確かにそうでした。日毎に朝夕の気温が下がっているのを感じるようになりました。まだまだうちわを手放せないようですが、あたりには小さい秋を感じています。

(介護員 平松 美幸)

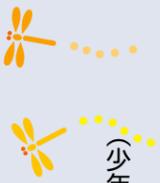


さつき

子ども達の秋は
ちょっと残酷?!

さつきの男の子達は、外で遊ぶのが大好きで学校から帰ってくると「たたいま」も言わないうちに「哲学堂に行こう」などと元気に出かけます。「それじゃあ、いっしょに哲学堂に行こう」と言う事になり気の合う子ども達を誘い出発しました。公園の池でザリガニ釣りをする子は、釣れた瞬間に「来たー」と大ハシャギ。魚や沼海老などをいっぱい網で捕まえて大喜びしている子。秋の公園は気持ちいいな〜と思ったその時、トンボを500ミリリットルのペットボトルに入れてあるA君を発見!! 心の中では「何であんな小さい所に入れるんだ! トンボがかわいそ〜」と思いつつ、当の本人はとて嬉しそう。「赤とんぼ捕まえたよ!!」と見せてくれました。満面の笑みを浮かべるA君になんて声かけしようかと考えていると、B君が「栓をしてみると空気が無くてトンボが死んじゃうかも」とアドバイス。A君はしばらくしてトンボを逃がし次の獲物を見つけに行きました。

(少年指導員 市村 英貴)



緑苑

十五夜

仲秋の名月の9月28日、前日の雨もあがり曇り空。緑苑では地域交流スペースに養護、特養合わせ14名のご利用者が十五夜のお団子作りのために集まりました。

養護のKさんは「100歳とは思えない程のお達者ぶりです、お団子の生地をお配りした瞬間「これ私、丸めていいの〜」と一言いうと、どんどんお団子を作り始めました。特養のIさんは、若い頃よくお月見団子を手作りしたとのことで、職員よりも詳しく丁寧にみなさんに手順を教えて下さいました。

そしてでき上がったお団子は、ススキ、お酒、果物と共にお月様の下に供えられました。その前で、「今夜はまああるいお月様がみられますように・・・」と「縷の望みを胸に手を合わせました。

(介護員 笠島 浩子)



きずな

大きい秋
見つけた

まだまだ残暑が厳しい9月のある日、施設長が変わった物を手に出動してきました。それが写真の松ぼっくりなのですが、縦19センチ×幅11センチと普通の3倍はある大物。台風の影響でふいた強風に乗って、施設長宅の庭にとびこんできたそうです。

施設の周辺には何トンもの(ちよっと大げさ?)松ぼっくりが落ちていたきずなですが、子どもたちもこのサイズにはびっくり。事務所に鎮座する「大物」を見て「何これー! っかーい!」

「これって模型? ほんとに松ぼっくり?」「松ぼっくりがこの大きさだったら、木も普通より高いのかなあ」

と、驚いたりあれこれ想像をめぐらせたり。肥料が良かったのかそういう種類なのかはわからないのですが、きずなの子どもたちもしっかり食べてぐんぐん成長して「大物」になってほしいですね。さあ、食欲の秋!

(少年指導員 小島 宗宏)



きずな

ボランティア紹介

ひげのおじさんリターンズ!

痛いぐらいの8月の陽射しの下「花咲き村」の協力を得て、きずなの庭でマスのつかみ取りと流しそうめんをしました。

「花咲き村」は日の出町を本拠地に西多摩地区でボランティア活動をしているNPO法人です。障害者福祉活動と森づくりが主な活動で、肢体不自由者の外出介助や、間伐・下草刈りなどの育林活動を行っています。以前パソコン教室や学習指導でお世話になっていて、ここ数年はご無沙汰でしたが代表の園田さん(通称・ひげのおじさん)と職員がたまたま会い、話しているうちに「じゃあ、いっちょ遊ぶか」となりました。

砂場にブルーシートを敷いて水を入れマスを放流し、施設裏の竹林から切ってきた竹であつという間に流しそうめんの準備も完成と、豪快ですばやい作業の園田さん&村民(ボランティア)のお兄さん・お姉さん)のみなさん。負けずに豪快なきずなの子どもたちをこれからもよろしくお願いします。

(小島 宗宏)

御奇贈ありがとうございます(敬称略)

- あかしあ会 秋山酒店 浅川春己 麻生美恵 池城安俊 池田貞治 池田茂二 市倉政市 一之瀬育夫 上野玲 栄光社 江田廣子 岡田正道 小倉妙子 小沢武治 小澤末子 川瀬悦子 北原青果店 能谷静子 栗林正昭 来栖明美 晃伸木工所 小島ユミ子 小林繁樹 駒紀友花 小山満里子 近藤宏 特定非営利活動法人交通遺児等を支援する会 坂本則子 坂本文子 佐藤富子 佐藤富士子 サプライト写真店大塚一 嶋田恵子 松栄亭 白倉徹哉 シルバーヴィラ哲学堂 進藤サエ子 新日本石油 株 社会環境安全部社会環境企画グループ 鈴木惣吉 鈴木芳子 関七郎 関根恵美子 浅間町婦人会 大日建設 鎌寺弘昭 高砂会 高橋秀三 高森千恵子 伊達正子 堤千代 東京都共同募金会 東京都食肉事業協同組合 東京都食肉生活衛生同業組合(福) 東京福祉会 東京読売巨人軍 時田惇 永上貴美子 中田龍佑 中野栄子 中山幸夫 生天目学

ボランティアの御協力ありがとうございます(敬称略)

- 相川喜代子 青木成江 青山幸子 あかしあ会 赤田美恵子 赤林好子 芦沢ミツエ 葦沢るみ子 東樹クニエ 阿部才千代 飯田アヤ子 飯塚喜亥 子 池田靖邦 石井宏 石川滋子 石川優子 石坂勝世 石塚陽子 市川アイ子 木ちどり 一色恵美子 伊藤浜子 伊東富美子 伊東陽子 井上和子 井上宏子 井上美喜子 井上令子 井路世津子 上田悦子 上野玲子 魚住仁恵 鶴沢シズ 梅澤佳代子 永柴郁代 江口亜津子 遠藤博 遠藤伊代 遠藤淳子 遠藤みつよ 遠藤弘子 太木三枝 大久保峯子 大倉裕子 小笠原敦子 西妙子 大貫陽子 小笠原キ江 笠原ミツヨ 岡島陽子 緒方シゲ子 岡田基子 荻野和子 荻原八枝 倉道子 尾崎節子 尾崎ヨシ子 澤末子 恩田猛 笠間豊子 梶田慶子 鹿島千重子 加藤まさ 加藤モト子 加藤まさ 加藤モト子 金子幸之助 上沢美知子 亀岡紀知信 河内ヒサ 川崎綾子 川崎和代 川崎恵 川満潤一 菊池和美 菊池智子 北邑ヒデ子 城所栄子 木下照子 木村伊津子 木村幸子 米和喜子 倉野裕恵 草野美鈴 久保田摩耶子 窪野咲子 熊倉洋子 米和喜子 倉岡政史 蔵屋敷外子 黒田久江 桑田陽平 警察学校 弦間まさ 小出辰一 小出由美子 小島百合子 河野トシヨ 小島久子 小島百合子 小島久子 小島貞子

(平成16年6月~平成16年8月)

- 奈良覚 橋本印刷 東町会 平澤伊一朗 平澤功夫 藤川貞二 藤田富次郎 府中三郵便局(財)報知社会福祉事業団 株式会社ポリシヨイサーカス 営業部 松井洋治 松村さき 身体障害者療護施設 みずき 緑町自治会 三輪武志 むさしの会 望月友子 茂木督周 森崎新吉 山浦真弓 やぶ清 清水正二 有鱗堂 科 弓削田恵美子 吉田ヒサ子 吉野政男

(平成16年6月~平成16年8月)

- 古森美沙 小柳シズエ 紺野和子 野幸子 齋藤聡洋 齊藤孝子 酒井絃子 佐々木八重子 佐藤晶代 藤ななか子 佐藤初江 佐藤富士子 佐藤芳江 佐野貞夫 佐野田鶴子 三品一成 塩澤佳津子 重田文子 下江美鈴 シニアアンサンブルグループ 柴山泰行 嶋田慶子 清水文枝 白石とみ子 白石富美子 進藤サエ子 進藤輝子 菅原大樹 杉浦四郎 本節子 鈴木妙子 鈴木チエ子 木千代子 鈴木嘉子 角田ミサホ 木光代 瀬戸貞子 蘭部あさ 津美津子 高田道敏 高島米子 瀨由利枝 高野栄子 高野晴美 高橋幸子 高橋ちよ子 高橋美智香 高橋三四子 高橋よう 田口稔子 内カツ子 竹内範子 竹内由美子 武田達憲 竹松ふく 辰本ケイ子 田中翠 田中久美子 田中美智子 田中光江 田中隆 谷口信子 丹野由紀子 近松瑞治代 千葉よし 原謙一 塚本泰子 辻新浩 土屋和歌子 土屋とき枝 網代恵美 角田和歌子 手塚正輝 東郷菜子 徳永桃子 永上貴美子 中下秀子 中嶋永子 中田愛子 永野信子 中村清美 中村美佐江 中山康 奈須静江 二家貞子 西木操 西久保長子 西澤弘至 西沢未桜 西宮智恵子 二宮澄子 丹羽はま 野口ふみえ 野坂昭弘 丹生初江 橋口綾子 橋本貞子 橋本柁 長谷川宣子 羽鳥みのる 花沢浩子 原田キヨ 原田康子 原田良子 原美津子 比嘉剛 肥後住江 平井敦子 平泉順子 平澤みどり 平林俊夫 平山房子 比留間アキ子 福島シマ 福田節子 藤田恭紀 法前田富子 細矢真利子 野新子 前田真知子 牧内ヤス子 切重明 町田真知子 松木洋子 澤通子 松下朗 松下朋子 松田恵子 松永彩花 松野アイ 松原優子 松村さき 松本健二 真鍋チエ子 丸山啓子 水谷静枝 水野智恵子 井喜久江 緑町自治会 皆川悦子 三溝久枝 宮崎美知子 宮澤由紀枝 宮下美智子 明神よし恵 明神れい子 三輪孝子 陸月会 村上節 明星学苑インターアクトクラブ 望月友子 茂木督周 森口絹代 盛田光代 守永朋子 森前タカ子 森亮子 木かつ子 矢島道子 安田敬子 木部末子 山内俊子 山上涼子 山口浅子 山崎健一 山崎政一 山田佳津江 山田喜美江 山田ケイ子 山田サワ子 山田シヅ 山田順子 山田秀雄 大和町会 山中洋子 山本かおる 山本峯子 山本良蔵 横溝篤 弓削田恵美子 横田公子 横溝かよ 横山龍男 吉田陸子 吉村佳美 米山秀子 米山若子 若月ユキ子 渡辺喬子 渡辺たつ子



- 特別養護老人ホーム 信愛泉苑 高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター 養護老人ホーム 信愛寮 特別養護老人ホーム 信愛緑苑 府中市立特別養護老人ホーム あさひ苑 府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター 特別養護老人ホーム かなだ連雀 かなだ連雀高齢者在宅サービスセンター 千代田区立岩本町ほほえみプラザ 子ども家庭支援センター しらとり 母子生活支援施設 白鳥寮 母子生活支援施設 東京都網代ホームきずな 母子生活支援施設 中野区さつき寮